



2026年(令和8年)4月号 第106号



東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 1891

「総合農学」を推進する

- 世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

4月・7月・12月発行
編集 東京農業大学 学長室企画広報課
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
https://www.nodai.ac.jp



HEADLINE

- 副学長あいさつ/学部長あいさつ
五感で味わう魅惑のトリュフ「Truffleforum Tokyo 2026」…… 2
学長の愛したフィールドの旅(フリーピン篇)
東京農大の研究者たち・内山秀彦教授/SDGsコンテスト
「農の蔵」シヨッピングサイトオープン/きのこ図鑑…… 3
農友会の活動「陸上競技部長距離ブロック・空手部」
社交ダンス研究部・相撲部/選手活動の舞台裏に広がる輪…… 4



入学おめでとう！
心より歓迎いたします

東京農業大学 学長 江口 文陽 EGUCHI Fumio

東京農業大学へ入学された院生、学生の皆さん、ご入学を心からお祝い申し上げます。
本学の学長として、そして同じ「総合農学」を志す仲間として、皆さんを心より歓迎いたします。
現在、世界は気候変動や食料安全保障、生物多様性に関して多くの困難な課題に直面しています。これらの問題解決の鍵を握るのが、皆さんがこれから学ぶ「総合農学」なのです。
農学は単なる生産技術の学問ではありません。生命、食料、環境、エネルギー、地域創生、そして健康を支える人類のあらゆる場面において持続することの可能性を追求する学問体系なのです。
本学は今年、開学135年目を迎えました。開学の祖である榎本武揚先生や初代学長の横井時敬先生の残された強い思いでもある建学の精神「人物を畑に還す」と、教育研究の理念である「実学主義が脈々と受け継がれています。すなわち知識を机の上だけの学びで終わらせるのではなく、自ら現場に立ち、土

物価高騰の影響により、1人暮らしや寮生活をしている学生が食費を削るようになった。しかし、修学の基本は心身の健康を保つことであり栄養バランスのよい食事が重要となることから、食支援事業として3キャンパスで1000円昼食を実施した。
11月10日〜12月5日まで行われた1000円昼食は、日本学生支援機構および東京農大教育

学生応援

「食」への多彩な取り組み



1000円 昼食

後援会からの助成金ならびに東京農大「修学支援募金」によって実現。各キャンパスの食堂では営業開始前から多くの学生が並び、開始から1時間程度で毎日完売となる賑わいであったことから、今後、第2回、第3回の食支援事業も検討している。
【小松勝彦】

2025年12月16日、厚木・世田谷・北海道オホーツクの3キャンパス学食にて、網走市農林水産部水産漁港課からご提供いただいたホタテ、しじみ、長天を使用したメニューを提供する「ホタテフェア」が実施された。
当日は網走市職員2名も各キャンパスの学食を訪れ、学生たちに網走市の海産物の魅力を発信。「網走の大きくて

ホタテフェア



News&Topics ニュース&トピックス
「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に本学教員7名がランクイン
スタンフォード大学とエルゼビア社が作成した、科学分野で影響力の高い科学者を特定する「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」の最新版にて、東京農大の教員7名がランクインした。このデータベースは、世界で最も影響力のある研究者上位2%を特定する包括的なリストで、本学選出者の内訳は、単年度6名、生涯4名、うち単年度・生涯ともに選出された教員は3名だった。
「大学の地域貢献度調査/日経 首都圏外への貢献で本学は第2位にランクイン」
日本経済新聞社が実施した「大学の地域貢献度調査」では、首都圏の大学の地域貢献について1都3県(東京、神奈川、千葉、埼玉)を除く43道府県への貢献度合いを調べた結果、東京農大が第2位(前回4位)に選ばれた。本調査は、2年に1度、全国777校を対象に実施され、本学がランクインした「1都3県の地域貢献度」は、1都3県にある129大学に対して調査を行った結果だ。本学では現在、56の自治体との協定および20道府県と就職に関する協定を締結している。
小田急小田原線 副駅名掲示に次いで、車内放送を開始
厚木・世田谷両キャンパス最寄り駅である、小田急小田原線の「経営駅」および「本厚木駅」到着前の車内にて、東京農業大学の最寄り駅であることを伝える車内放送が流れている。
2025年12月11日より改修の完了した通勤車両から順次始まり、2026年3月に全ての通勤車両で放送が開始した。「経営駅」および「本厚木駅」にお越しの際には、ぜひ耳を澄ませてお楽しみいただきたい。【石塚真維】

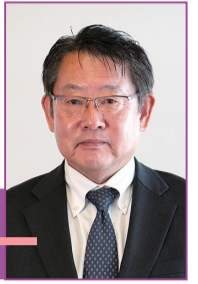
学ぶことは  
楽しいこと!

門倉 利守 副学長  
KADOKURA Toshimori



東京農大から  
世界に

三原 真智人 副学長  
MIHARA Machito



最強の学問を  
武器に。農大から、  
最高の冒険を

上岡 美保 副学長  
KAMIOKA Miho



未来を拓く  
「総合農学」への  
第一歩

上原 万里子 副学長  
UEHARA Mariko



理論と実践を  
両輪とした、実学的  
な学びを

杉原 たまえ 副学長  
SUGIHARA Tamae



「緻密に大胆に」実り多き学生生活を

農学部

多田 耕太郎 学部長  
「厚木キャンパス学長特別補佐」

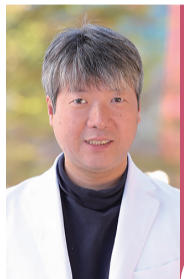


ご入学おめでとうござい  
ます。これからの学生  
生活、どのように過ご  
しますか? 大学生には失敗  
が許され、そこから学び、  
解決能力を習得すること

「生命科学」を広く学ぼう

生命科学部

富澤 二元博 学部長



生命科学部へようこそ。  
AI時代を生き抜くため  
には、「理系の教養力と総  
合力」を身に付ける必要  
があります。生命科学を  
広い視野で学び、同時に英  
知識を豊かにし、知恵を高める

国際食料情報学部

入江 憲治 学部長



世界経済のグローバル  
化に伴い、日本でも年々  
グローバル化が進んでい  
ます。大学生の3人に2  
人は、海外で働くことに  
興味があるようで、これ

未来の食を支える人材へ

応用生物科学部

山本 祐司 学部長



ご入学おめでとうござ  
います。食料をめぐる  
社会課題は、国内外を問  
わず解決が急務となっ  
ています。応用生物科学部  
の4学科は、「生物」と「化

君はどんな人材になるのか

地域環境科学部

竹内 康 学部長



皆さん、ご入学おめ  
とどうございます。私は、学  
部長に就任してから、高校  
生諸君への学部説明にお  
いてこのメッセージを発  
信しております。君たち

生物産業学部

千葉 晋 学部長  
「北海道オホーツクキャンパス  
学長特別補佐」



ご入学おめでとうござ  
います。大学生活では「行  
動と選択の自由」が大き  
く広がります。その自由  
を活かすには、自ら考え  
判断し、決断する力が重  
要です。学問との出会い  
や仲間との交流を通じて  
思考力と決断力を磨き、  
自らの進むべき道を見  
だしてください。大学で  
過ごすこの4年間は、皆  
さんの長い人生において  
大きな意味を持つでしょ  
う。どうか充実した日々  
にしてください。

五感で味わう魅惑のトリュフ  
「Trufforum Tokyo 2026」

右: 官能評価に  
取り組む学生  
左: 記念品を贈呈する  
EM I関係者(江口学長)



3月5日、世田谷キャ  
ンパスで日本初となる  
European Mycological Institute  
(EMI/欧州菌学研究所)によ  
る「Trufforum」が、本学と一正蒲  
鉾株式会社との共催で開催され  
た。EMIは2017年から世  
界主要都市(スペイン、フランス、  
アメリカ)で、世界中の美食家育  
成を行ってきた。当日は、本学学  
生の他一般市民、専門家、メデイ  
ア関係者など約150名が参加  
し、黒トリュフの香り漂う会場で  
試食を楽しんだ。講演では日本

ご入学おめでとうござ  
います。専門的な学問  
を学ぶことは、本来とて  
も楽しいことです。これ  
までの基礎から、自らの  
学びたいことを自由に学  
ぶことは、学問にとって  
最も大切なことになりま  
す。好奇心旺盛な皆さん  
に、大学は安心して学べ  
る環境を整備しますの  
で、実学の醍醐味を十二  
分に味わってください。  
自分の夢を叶え、将来、  
産業界の発展に貢献する  
素敵な大人へと歩み出し  
ましょう。

ご入学おめでとうござ  
います。東京農大はわが  
国を代表する農学系の総  
合大学として、世界の平  
和と人類の繁栄に資する  
ため、広義の農学分野で  
の諸問題の解決に向けた  
国際的な教育研究・協力  
活動を実施しています。  
1966年(昭和41年)に  
米国ミネソタ州立大学と  
協定を締結して以来、現  
在、世界各国に55の協定  
校(学部間も含めて)を有  
しています。新入生の皆  
さんも東京農大から世界  
に羽ばたいてください。

新入生の皆さん、ご入  
学おめでとうございま  
す。予測困難な時代ですが、  
食・農・環境・生命を横断  
する「総合農学」は、地球  
規模の課題を解決し未来  
を切り拓く最強の学問で  
す。東京農大での学びを  
誇りに、フィールドへ繰  
り出し、仲間と共に五感  
で「冒険」してください。  
実学を通じて自らの付加  
価値を高め、理想の将来  
をその手で形にする。皆  
さんの熱い学生生活を、  
全力で応援しています。

新入生の皆さん、ご入  
学おめでとうございま  
す。農学は今や年々その  
領域を広げ、本学で学ぶ  
自然科学と社会科学を統  
合した「総合農学」は、気  
候変動や自然災害、健康  
被害など多様なリスクに  
立ち向かうための力強い  
総合知となります。皆さ  
んがこれから紡ぎ出す新  
たな「知」も、未来社会を  
支える本学の宝となるこ  
とでしょう。この使命を  
胸に、充実した学びと飛  
躍の学生生活を送ってく  
ださい。

新入生の皆さま、ご入  
学おめでとうございま  
す。未知なる世界に向け  
て羽ばたく力を、そして  
世界のどこに在っても皆  
さんらしく生き抜く力  
を、東京農大で身に付け  
てください。本学の学び  
は、理論(Theory)と実践  
(Practice)を両輪とした  
実学的な学びです。また、  
親身になって人を育てる  
農大マインドは、本学な  
らではものです。農学  
徒らしく、実直に地道に  
研鑽を積んでください。  
心から応援しています。

第12弾

バイリング

雪嶺茸  
学名: *Pleurotus eryngii* var. *tuoliensis*



アワビのような白く肉厚な健康きのこ

バイリングは、中央アジア原産のヒラタケ科の食用きのこで、真っ白でエリンギに似た姿が特徴です。肉厚で香りが良く、加熱するとアワビのような弾力のある食感が楽しめます。食物繊維が豊富で、免疫力の向上や健康促進が期待され、中国では古くから薬膳食材として親しまれてきました。

江口学長の研究では、高脂血症や高血圧、糖尿病の改善の可能性も報告されており、生活習慣病の予防や健康維持への活用が注目されています。

【文・寺田守一、写真・江口文陽(学長)】



カマチョUPLB学長はじめ大学スタッフと  
本学訪問団での記念撮影



思い出の絵画前に立つレイエスASCOT  
学長と私(ASCOT学長執務室にて)

私の足跡は式典の壇上だけに留まらず、これまでに本学関係者がフィリピンの研究者と膝を突き合わせ、土の香りを嗅ぎ、植物の息吹に耳を澄ませた数々の記憶を覚醒するも

の情熱が循環し次世代の若者たちがそのバトンを継いでいく、さらに深く、さらに豊かな「国際交流の森を育むための新たな種まきの旅であったのだ」と。フィリピンの温かな笑顔と尽きることのない農への探究心、それこそがこの旅で得た何よりの宝物である。

【文・江口文陽(学長)】

熱帯の湿り気を帯びた風が物語の新たな頁をめくるように吹き抜けていた一昨年の初夏、フィリピン・ロンソン島東部に位置するオーロラ州立工科大学(ASCOT)の新学長に就任したレイエス博士を祝う声がこの地に響き渡った。この祝祭は、単なる一大

学節目ではなく、本学とフィリピンの学び舎が、数十年にわたる「農を通じて紡いできた絆を再確認する情熱的な場であった。レイエス学長も歴史の中で育まれた一人であり、就任式典の華やかな喧騒の中、私とレイエス学長が交わした握手には、言葉以上の重みがあったのだ。「実学主義」を掲げる本学の精神が

が今は立派な大樹となつて根を張っているかのような誇らしさがあった。太平洋の潮騒を背にオーロラの山々を望むことから始まったこの旅は、私の脳裏に次の100年を見据えた交流のビジョンが映し出されていた。フィリピンの地から本学へ、総合農学の情熱が循環し次世代の若者たちがそのバトンを継いでいく、さら

連載  
学長の愛したフィリピンの旅—フィリピン篇  
歴史を再確認し  
未来を約束する信頼の絆

第4回 SDGsコンテスト 受賞者決定



Table with award categories (Best, Excellent, Special) and winners' names and projects.

12月13日、世田谷キャンパスで「未来への挑戦 第4回東京農大SDGsコンテスト」最終審査を実施し、全応募作品460通の頂点となる最優秀賞および優秀賞、特別賞が決定した。発表者は緊張しつつも自信に満ちた表情で自らの取り組みを発表していた。また、最終審査と表彰式の合間には、審査員も務めたタレントの川瀬良子さんと俳優・気象予報士の片岡信和さんをお迎えし、上岡副学長とのトークセッションも開催。農業を始めたきっかけや農業の魅力についてトークを繰り広げた。

『農の蔵』ショッピングサイトオープン

東京農大のアンテナショップ『農の蔵』が、募金付ショッピングサイトをオープンしました。このサイトは卒業生のえりすぐりの逸品や、フードロスの取り組みで余剰在庫や売れ残り商品を販売し、売り上げの一部を東京農大へ募金するサイトです。『農の蔵』はショッピングを通じて東京農大(農業)の魅力や可能性を発信し、商品提供する卒業生や、購入されるお客様、みんなで東京農大を盛り上げていきます!【株式会社農大サポート】

「猫の匂い認識に関する行動研究」が海外でも注目!

東京農大の研究者たち Professor & Researcher  
内山 秀彦 教授 UCHIYAMA Hidehiko  
動物科学科 動物行動学研究室



動物、特に犬や猫たちの存在が我々人に豊かな心の変化を与えてくれることは誰もが経験するところである。動物行動学は、誰もが日常で目にしながらも、知り得なかったその真の意味を討究する学問であり、この動物行動学を基盤として、癒やしの効果、すなわち動物たちによる人の心身の健康効果のメカニズムを解き明かそうと考えている。

彼らの心を知る  
彼らの心を知ることは、より良い共生を思索し、その関係から得られる我々の健康への恩恵についての広い啓発を指し、これからも誰もがアタリマエのことその真実について追求していきたいと考えている。

彼らの心を知ることは、より良い共生を思索し、その関係から得られる我々の健康への恩恵についての広い啓発を指し、これからも誰もがアタリマエのことその真実について追求していきたいと考えている。

従事し、いくつかの発見にも恵まれた。例えば、乗馬による揺れ刺激の伝達人が人の脳に影響し、行動改善、姿勢改善などの心身の効果として発現すること。また猫との触れ合いが人の脳の前頭前野領域を賦活化させ、同時に猫でもオキシトシンと



猫との触れ合いによる人の前頭前野の賦活化

多い。猫が視覚や聴覚で飼い主を認識していることは明らかになっていたが(それでもほんの10年ほど前)、我々は匂い(嗅覚)からも人を弁別していることを示すことができた。また玩具での遊びという誰もが行う猫とのコミュニケーションは、猫にとって(単に玩具を追いかけているわけではなく)、人と遊んでいるという認識にあるというところも明らかになることができた。

農友会活動

選手活躍の舞台裏に広がる輪



井上欣一さん(開発卒) 『ふるうつらんど井上』から さつまいも “ほしあかね”



小沢真人さん(経済卒) 『小沢農場』から “キャベツ”

卒業生が生産した農産物を食べて戦いに挑む



奥村昂紀さん(ビジネス卒) 『ファームオクムラ』から 梨 “豊水”



北次聖さん(経済卒) 『北次農場』から 米 “ひやくまん穀”

世田谷キャンパスの運動部寮で暮らす学生たち(陸上競技部、硬式野球部、ホッケー部、レスリング部、ボクシング部、ラグビー部)を対象に、卒業生が作った農産物を利用した食事を提供した。本学での学びを実践し、母校にその想いを還す取り組みとして今年度から開始。これまで第1弾〜第4弾まで開催され、それぞれさつまいも、キャベツ、梨、米を利用した献立が提供された。

【石塚真維】

陸上競技部 駆け抜けた箱根、富士山

「第102回箱根駅伝」 総合18位



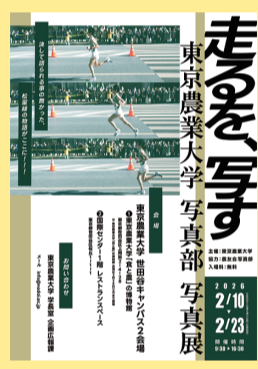
晴れ渡る富士山麓を長距離ブロック女子が富士山女子駅伝で力走し、2025年を締めくくった。その輝を受けた長距離ブロック男子が箱根路を疾走、2026年の幕開けを飾った。今年のさらなる飛躍を予感させる、新たな挑戦の始まりとなった。

1区を快走した栗本航希(経済3年)が、4区が終わって立川での予選会を6位で突破した長距離ブロック男子は2026年1月2日・3日に開催された第102回箱根駅伝予選会を6位と好位置に付け、5区に響を渡したが、結果は13位。復路は来年以降の主力を担ってくれるであろう1・2年生を

根駅伝本選に挑んだ。往路には予選会で上位を占めた5名を投入し、シード権内での往路ゴールを目指した。4区が終わって立川での予選会を6位で突破した長距離ブロック男子は2026年1月2日・3日に開催された第102回箱根駅伝予選会を6位と好位置に付け、5区に響を渡したが、結果は13位。復路は来年以降の主力を担ってくれるであろう1・2年生を

主体とするオーダーを組み、巻き返しを狙ったが、結果は復路19位、総合18位という残念な結果に終わった。しかしながら、二年前に出場した100回大会であれば、往路6位、総合11位に相当する素晴らしい走りを見せてくれた選手に惜しみない拍手を送り続けてくれた農大関係者の皆さまに御礼申し上げます。

写真部「走るを、写す」写真展 活躍を記録する



陸上競技部の活躍を写した写真部写真展が巡回開催中。2月10〜23日の国際センター・食と農の博物館での展示を皮切りに、3月から厚木、4月以降にオホーツクで開催される。



7区を力走する西山英莉(バイオ4年)

「2025全日本大学女子選抜駅伝競走」総合18位

2025年は全日本大学女子駅伝(杜の都駅伝)への出場を逃したものの、選手はそこで折れることなく、全日本大学女子選抜駅伝(富士山駅伝)へのアペリッシュ枠での出場を目指した。多くの選手が記録会で大学自己ベストを更新し、見事出場権を獲得。当日は天気も晴れ渡り、雲峰富士の麓を選手は力走したが、現時点では全国トップ校との実力の差は大きく、一度も上位を向うことができず、総合18位でフィニッシュした。その中、4年生で唯一出場した7区の西山英莉(バイオ)が

社交ダンス研究部

全日本学生競技ダンス選手権大会FMの部第3位、3年ぶりに上位に返り咲き



フォーメーション(FM)で全国第3位入賞のメンバー

2025年12月に獨協大学で開催された「第71回全日本学生競技ダンス選手権大会」において、農友会社交ダンス研究部は、複数のカップルが一体となってテーマを表現することで評価されるフォーメーション(FM)の部において、全国第3位に入賞した。全国大会で上位に入賞するのは、同じく第3位に入賞した

2022年の第68回大会以来3年ぶりとなる。今年度、個人の部でも11月に東京都立産業貿易センターで行われた第24回東日本学生競技ダンス後期新人戦チャチャチャの部において、服部航平(バイオ3年)・大城七桜(バイオ3年)組が第1位となるなど、例年同様、全日本ならびに東部大会で優秀な成績を収めた。

【部長 阿部尚樹】

空手部

2025年もインド遠征を実施



現地の大会スタッフからも祝福

空手部は昨年続き、第21回WKI国際空手道選手権大会2025へ出場するため11月下旬に1週間のインド遠征を実施した。2週間前に行われた全日本大会の疲れや負傷を

ものともせず、相手優勝4名、形優勝1名、準優勝1名となり、全員がメダル獲得の好成績を収めた。この遠征では競技だけではなく、空手を通じて各国の選手や指導者と国際交流を深めるとともに、インドの生活環境や食文化などを体験する貴重な機会となっている。今回は選手全員が体調不良になるなど、国際大会参加の難しさを体験することができた。

【部長 大久保研治】

相撲部

木下優希選手、時津風部屋に入門



全国学生相撲個人体重別選手権大会優勝など、各種大会で好成績を上げた相撲部の木下優希(森林4年)が、今春時津風部屋に入門した。時津風親方はじめ、正代関、時疾風関らが本学出身だ。木下さんはこの春場所、熱心に稽古に励んでいる。活躍を祈念する。

【部長 栗野隆】

東京農大で初の断髪式



元謙豊、後藤謙太さん(開発卒)と師匠の時津風親方

時津風部屋の元謙豊さんの断髪式が、1月31日、横井講堂で執り行われた。式には時津風部屋後援会や農大関係者ら150人以上が出席し、一人一人が髪を入れて門出を祝った。最後の止め髪は、時津風親方が務めた。元謙豊さんは農友会相撲部出身。【住友富美】

※在籍学年は2026年3月時点のものです